

1 1月7日 後期授業 保田茂学長

「中国の終わり」 エコノミスト 2012年11月13日 (p18~21) 金山隆一/秋本裕子

中国のGDP成長率は7期連続で鈍化した。高度成長は終わり、輸出と投資という経済成長の2大エンジンは減速。

- ・資源爆食が終わる：賃金の上昇、原材料の高騰、不動産コストの上昇などで、輸出競争力は失われ、3年後からは生産年齢人口が急激に減少するので、豊かになる前に高齢社会に突入することになりそうである。
- ・経営革新の担い手がない：民間企業のほとんどは労働集約型で、利潤は人材育成や技術開発ではなく、不動産投機に使われる。また労働配分率(人件費の比率)は40%と極端に低く、消費主導経済への転換も困難。
- ・新政権の課題は13億個：日本は60年代に公害問題、70年代に石油ショック、80年代にプラザ合意後の円高、90年代にバブル崩壊、そして90年代後半に生産年齢人口減少が始まった。中国はこの5重苦がこれから一気にのしかかる。

「データでみる中国経済」 エコノミスト 2012年11月13日 (p22~23)

丸紅経済研究所 李雪連

- ① ロボータの終焉 ② 改革開放ボーナスの終わり ③ 諸コストの上昇 ④ 政府債務問題
- ⑤ 民衆の不満の高まり ⑥ 中進国の罣

1 1月21日 合同授業 大阪府立大学名誉教授 荻野芳彦氏

「アラル海の消滅—大規模水利開発の代償」

(要旨別添)

1 2月5日 合同授業 発表会リハーサル

外部発表会最終リハーサル

- (1) 兵庫県の漁業の現状と今後 「さかなチーム」
- (2) ジージ・バーバ農業の実践 「米つくろう会」
- (3) ひょうご安心ブランド農産物の販売戦略に関する提案 安心ブランド応援隊

1 2月19日 合同授業 保田茂学長

前期・後期合同学習 (外部発表会の総括・反省会)

H25年1月9日 前期授業 保田茂学長

「安全良質な食べものの確保」

- ◎コウノトリ育む農法の目指すもの・・・どじょうやカエルが棲める田んぼ(農薬を使わない)安全・良質な食べもの作り。豊岡が中心→兵庫県全体に拡大していきたい。
- ◎ひょうご安心ブランドとは・・・①各都道府県が定めた化学肥料・農薬の半分以上を削減したものの。 ②残留農薬が国の基準野1/10以下 ③栽培方法・検査結果の公開
- ◎コウノトリ野生復帰推進計画(2期)の概要・・・3つの柱①個体群の管理→独立した群れをつくる。②環境整備→川の両岸に浅瀬をつくり魚の住みやすい環境をつくる。 ③人間対策→協議会・組織
- ◎有機リン・・・記憶障害・知力低下・鬱、等の精神障害の恐れがある。
- ◎ネオニコチノイド系農薬・・・浸透性・残効性・神経毒性

H 2 5 年 1 月 9 日 後期授業 保田茂学長

「インフレを学ぶ」 エコノミスト 2013 年 1 月 15 日 (p 18~19) 緒方欽一

安倍首相の金融・経済対策(アベノミクス)の発表に市場が反応し、円安・株高が進み、景気回復の期待感が膨らんでいる。日銀の2%インフレ目標導入と大胆な金融緩和策、積極財政政策により、円安に誘導し、輸出産業を中心に経済成長を復活させるのが、アベノミクスの狙いだ。

2%のインフレ目標は、行き過ぎたインフレを抑制できるとの指摘もあるが、国土強靱化の財源として国債を増発し、財政への歯止めが失われたと市場が判断すれば、国債暴落、金利急騰、極端な円安が起り、「悪いインフレ」に突入する可能性がある。

「輸入物価が上昇 中国製品ももう安くない」

エコノミスト 2013 年 1 月 15 日 (p 30~31) ニッセイ基礎研究所 樋浩一

円高が進んで輸入品価格が下落し、デフレスパイラルに陥っていたが、経常赤字化により円安方向に転換し、輸入物価が上昇に転じている。中国の経済発展の結果、国民の所得が急速に上昇し、生産コストが上昇したため、円安と相まって中国製品は安くなくなった。

1 月 2 3 日 合同授業 日本水産学会近畿支部 反田實氏

「魚と漁業の話 あれこれ」

(要旨別添)

2 月 6 日 前期授業 保田茂学長

「農薬を使用しない農業について」

*根を元気にたくましく発育させる するために 土壌を次の項目の改善を行う。

①物理性の改善

土壌を学校のグラウンドのような隙間の無い単粒構造から緑肥(有機物)をすきこみ間隙に水分、養分、微生物が蓄えられる。

② 学性の改善

保肥力の増大を図る。すべての緑肥は土壌にすきこまれて、微生物に分解されて腐植となる。植物には大気、水にふくまれている C, H, O をあわせて 17 種類の元素が必要である。

土の成分として

*大量要素 N, P, K (Ca, S i)

*中量要素 Mg, S, Ca

*少量要素 Fe, B, Zn, Mn, Cu, Mo, Cl

③生物性の改善

土壌の中に有用な微生物がバランスよく含まれていること。

植物の根ハムシゲル(糖類の一種)を放出し、根圏にはこれをエサとする多くの微生物が増殖する。

*その他

①未熟微生物を土に混ぜない。未熟有機物は土の中で発酵させると熱、ガス、有機物が出て根の根毛がやられるので、十分発酵したものを上の混ぜる。

②「ぼかし」の作り方

米ぬか： 6 油粕： 3 魚粉： 2 カキがら石灰： 1 水： 2

夏季は2週間 冬季は1ヶ月で出来る。

2月6日 後期授業 保田茂学長

「シェール革命の衝撃」 エコノミスト 2013年1月22日 (p18~21) 金山隆一／桐山友一

日本は原発代替でLPG (1兆円以上)、LNG (6兆円) を破格の価格で大量に輸入しているが、シェールガス革命のお蔭で、半値で輸入でき、貿易収支改善の可能性がでてきた。

そのためには①ガス大国ロシアからパイプラインを引く ②石油メジャーでない新たな売り手からLNGを入手 ③電力・ガス会社がアス権益を取得する ことが必要である。原発再稼働を交渉カードとするのではなく、シェール革命を、日本の脆弱なエネルギー供給構造と国家戦略のなさを改善するチャンスと捉えるべきである。

「Q&AシェールガスとLNG」 エコノミスト 2013年1月22日 (p22~25)

シェールガスとは頁岩層の隙間にある天然ガス・オイルで、従来の天然ガス・オイルの素。埋蔵量は膨大だが希薄なので商業生産は困難とされていた。2000年代初頭に、アメリカがシェールガスを効率的に回収する技術を開発し、世界最大の天然ガス生産国になった。しかし、大量の水を使って水圧破碎すると同時に化学薬品を注入するので、環境への影響が懸念される。

2月20日 合同授業 光都農業改良普及センター 経営課長 前田美嘉氏

「農村の暮らしと農家の思いをお届けします」

(要旨別添)